

刊行に寄せて



文部科学大臣

萩生田光一

我が国において新型コロナウイルス感染症の最初の感染者が確認されてから1年以上が経過しました。この間、全国的な学校の臨時休業や2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の延期、緊急事態宣言の発出、文化芸術・スポーツイベントの開催制限等があり、私たちの日常は今も新型コロナウイルス感染症により様々な困難に直面しています。政府としては、引き続き一体となって、円滑なワクチン接種の推進など新型コロナウイルス感染症への対応に全力で取り組むとともに、安全・安心な2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会の開催を目指してまいります。

令和2年度文部科学白書では、特集として、「新型コロナウイルス感染症禍における文部科学省の取組」、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」、「研究力向上のための若手研究者への支援」の三つのテーマを取り上げました。

文部科学省が担う教育や科学技術イノベーション、スポーツ及び文化芸術の振興は、我が国の未来を切り拓く取組の中核であり、このコロナ禍においても、決して歩みを止めることが許されないものです。特集1「新型コロナウイルス感染症禍における文部科学省の取組」では、児童生徒の「学びの保障」をはじめとした教育関係の取組、新型コロナウイルス及び将来の感染症対策に貢献する研究開発への支援、甚大な影響を受けているスポーツ・文化芸術活動への支援などを紹介しています。

また、この新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大やSociety5.0時代の到来など、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となる中で、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが必要です。特集2「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」では、変化し続ける社会状況を見据え、これからの初等中等教育の目指すべき改革の方向性と具体的な方策について、中央教育審議会が取りまとめた答申を中心に紹介しています。

さらに、我が国の研究力強化のためには、研究現場の重要な担い手であり、将来の科学技術・イノベーションを牽引していく若手研究者を支援していくことが必要です。特集3「研究力向上のための若手研究者への支援」では、我が国の若手研究者支援の全体像について、若手研究者を取り巻く現状、若手研究者を支援するために行っている主な施策、若手研究者支援に関する今後の展望を取り上げます。

文部科学行政の推進のためには、国民の皆様の御理解と御協力が不可欠です。本白書が幅広く活用され、皆様の理解を深めていただく一助となれば幸いです。